

令和4年度第2回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和5年2月20日（月）
13時30分～16時30分
場 所：青葉区役所9階会議室
出 席：島田委員長、荒井委員、小川委員
加藤委員、齊藤委員、白石委員
※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会 委員長 島田 福男

3 議事

(1) 議事録署名人選定 荒井委員

(2) 令和4年度青葉区区民協働まちづくり事業 企画事業報告会

◇各事業報告

◇質疑応答、意見等

① 仙台市ほたるの里づくり事業

委員 担い手のところで、なかなか高齢化が大変だというお話があったが、例えばほたるの里親という取り組みをされている中で、そこから担い手になっていくような方が出てくるなど、そういう側面はあるのか。また、中高生の子どもの参加の話があったが、そこから親世代が参加をするようになるルートをつくるなど、もしあればお教えいただきたい。

説明者 このほたるの里親づくりには、片平あたりに住んでいる子が小学校高学年あたりから毎回のようにお手伝いに来てくれるなど、スタッフの右腕になって、足となり手となり動いてくれるような子も出てきている。そのような子が中学生になり今年受験だとかいうことで、なかなか参加できていないが、将来は多分大きくなったら戻ってきてくれるのではないかと思っている。また、この里親の制度で、泉区の幼稚園の団体が参加してくれており、幼稚園のお父さんお母さんの中には毎年、来年も参加したいという方がいて、こちらからもこういう方にぜひ担い手側に入ってもらいたいと個別に声がけしたりしているが、まだいい返事は得られていないような状況である。今後も、そういう若いお父さんお母さんに声がけをしようと思っている。

委員 総会や役員会を青葉区中央市民センターでやっているが、中央市民センターから担い手についてのアドバイスをもらったり、それぞれの地区の市民センターと連携したりしていくのがいいかと思う。地区の市民センターはそれぞれの地域の

町内会やいろいろな団体と企画して事業を行っているので、多分一緒になってやってくれるかと思う。

説明者 その1つとして、旭ヶ丘市民センターはほたるの講座を毎年やっており、ほたるの講座に参加した方々が、他のほたるの会の清掃活動に時々参加してくれているということもある。これもできれば他の区、他の市民センターにも呼び掛けて、やっていきたいと思う。

委員 里親の会にかかわっている方などに担い手としてお誘いをするということが、これから大切かと思うが、この里親の会の参加者の方の募集はどういうかたちでやっているのか。

説明者 昨年度も参加してくださった方を優先して、こういうのがまたあるよと電話でお伝えし、あとは新聞等で呼びかけることでプラスアルファを募集している。コロナもあり、50人くらいが限度だと思っているが、コロナが収まればもう少したくさんの方に声かけをしていきたいと考えている。

委員 参加者がさらに増えたときの対応というのは考えているか。

説明者 こちら側が高齢化でなかなか活動できる人が少なくなってきており、親子併せて100人くらいが限度かと考えている。

委員 協議会で申請をし、各会に予算を割り振り、そこで使ったものを協議会のほうでまとめているというようなかたちを取っているが、辞める団体、新しい団体が出てくるという中で、それぞれの団体のなかで自立していくような流れを、協議会では考えているのか。それぞれの活動の経費を協議会で捻出するというよりは、少し自立へのサポートも必要かと感じた。

説明者 現時点で7割くらいの予算が各団体に渡っており、3割くらいが協議会自体の事業、ほたるの作文コンクールや里親の会など、そういった事業に使っており、団体が増えると、1団体あたりに配分される金額が少なくなっていく。今までおまつりに随分お金をかけていたが、今度は整備や生息地をきれいにするなど、もっと住みよい環境づくりや広報など、そういったものに力を入れてかなくてはいけないということで、来年度はそういう方に力を入れて、予算を使っていきたいと考えている。

② 回文の里づくり事業

委員 7月の新川ほたる鑑賞会、1月のほっこり作並には、どのようなかわり方をしたのか。

説明者 新川のほたる鑑賞会では、参加者や実行委員の地元の方が回文コーナーを作り、今までの出版物や回文かるたなどを並べて販売した。ほっこり作並の方は、顔を出して挨拶したぐらいである。

委員 地域の活動にいろいろ参加されて、そこで物販などにもつながると非常によろしいと思う。

委員 回文コンテストの応募総数が353点ということだが、その中で何人くらいの方に賞を出すのか。ニッカ賞や作並温泉賞というような賞が出ているが、協賛金の額は1万円であるが、こういった企業からの協賛はあるのか。

説明者 賞は全部で5部門、各部門3作品ずつ選んでいる。それから副賞に関しては、予算内で賄えるように、特に作並のおみやげ品を見繕って贈っている。1番の副賞には、ニッカウキスキーにウイスキーの提供をお願いしているが、商品はここ5年間値段的にはそれほどかからないようなものにはなった。地域の方々や子供たちなどには、それほどお金のかからないようなものを配っている。今年は子供たちにはマーカートの三色セットや旅館が作っている入浴剤の配布などを考えている。

委員 回文クイズやおみくじガチャ、回文かるたなど、いろいろ工夫が感じられて素晴らしいと思う。特にラサンタを活用できるというのはいいと思う。地域の人だけでなくそういうところを活用できると、仙台全体にも広がるのではないかと思う。コンテストは何名ぐらいで審査しているのか。

説明者 5名である。

③ 大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」

委員 製作したこいのぼり70本のうち36本を選別しており、来年はこいのぼりを大きさも本数も増やしたいということだが、できれば選別から漏れたこいのぼりも全部どこかに取り付けられるようにしたら、製作した子どもたちは喜ぶと思う。トランシーバー8台はレンタルか、それとも購入か。

説明者 購入である。

委員 大倉ダムの近くに水道記念館があるが、水道の近代化や水利用という観点からかなりいろいろな見地があるかと思うので、景観や学習的な要素を絡められるといいかと思う。もちろん道路が狭いためアクセスが難しく、多くの人があると大変ということもあるかもしれないが、もう少し来場者が増える、あるいは別様の経験をして帰るということにつながることであればと思う。

委員 キッチンカーの利益になるためには、1日の来場者数を1,000人ぐらいということで、現状の倍から3倍ぐらいが必要になると思うが、仮に1,000人になったときに、現状のアクセス路がかなり狭いということであるが、なんとかさばける程度の人数なのか。

説明者 現在は交通誘導員を頼んで交互通行での車の出し入れをしており、交通誘導員の経費に助成金の半分を取られてしまうという状況である。これは非常にもったいないが、それがないと警察の許可が下りないという状況なので致し方ないと思っているが、両方向すれ違いでやれるようになると、1日1,000人の来場は可能だと思うし、駐車場も問題ないと思っている。

委員 せっかくダムの近くでやるということなので、ダムの説明を記したパネルみたいなものがあるとわかりやすいかと思う。

説明者 ダムの説明パネルについては、いま選奨土木遺産への登録を急いでおり、それが登録になった暁には土木遺産という銘板を作ることになっている。そこにダムの説明等々を書き込んで、ダムの堤体のどこかに張り付けるというようなことを考えている。

④ 宮城地区まつり事業

委員 青葉区民まつりには飲食ブースがあったが、宮城地区まつりには飲食ブースがなかったという点で、行政の中でどのような意思決定をされたのかという点をお聞きしたい。次年度以降コロナの状況がどうなるかという部分はあるとは思いますが、やはり同じ自治体、市の中で、その基準というのは統一したほうがいいのではないかと感じる。他の区がどうだったかはわからないが、統一基準を持っておいた方が、このような状況の中でどのようにやっていくかということにつながるかと思うし、またそのことがおそらく宮城地区の資源にもなると思うので、そのあたりをご検討いただきたい。

説明者 今回飲食ブースはなしと決定したのは、宮城地区まつりの実行委員会の判断である。宮城地区のほかの夏祭りなどでも、飲食だけはやらないほうがいいのではという意見があるなど、慎重な姿勢の方が多く印象があり、実行委員会でもそもそも開催をどうするかというところで結構揉めた部分もあり、今回は慎重にとということで飲食はなしと判断した。この点については、他の区ともこれから検討していきたい。

事務局 補足させていただく。青葉区民まつりでは飲食の出店をしたが、最初は他区とも足並みを揃えたほうがいいのではないかとという話し合いがあった。ただ最終的に、実行委員会がそれぞれの区・地区にあり、実行委員の方々と区・地区の中で話し合いをして、区民の方の意見も反映させた方式でやろうという意見の一致があった。その結果、時期の違いもあるが、各区・地区によって出店したところと出店しなかったところがあった。

委員 震災の時から事務局をすべてまちづくり推進課のほうで担っているような状況を、少し変えていけるような、市民協働にシフトするようなことができたかという話があったが、なかなか難しいと感じている。例えば来年度以降もう少しこういことをしたら協働でき、少し事務局の負担が減って実行委員会に渡していけることになるというような案は考えているか。

説明者 そちらも事務局としては課題ではある。今回団体と繋がりがあるような実行委員の方々にいろいろと運営に協力いただいたが、そういったところや協賛金の依頼などもさらにやっていただける方々がいるのではないかと考えている。実行委員については、今いるメンバー以外で、そういうまちづくりに興味あるような方にお声がけして、実行委員会に参加していただけないか打診しようと考えている。

委員 実行委員の選定についても、動ける方となかなかお忙しい方がいると思うので、実動部隊を募集したり、大学生も含めた少し若い世代を巻き込んだりしていくような、中間的な方を少しキーマンとして入れられるといいのではないかと感じた。

委員 来場者数は、コロナ前とどのくらい変化があったのか。

説明者 例年だと、多分 28,000 人ぐらいだったと思う。

委員 中断前よりも増えたとか減ったとかというのはあるか。

説明者 中断前のほうが明らかに多かった。今回は飲食ブースがなかったこともあり、結構少なかったと思う。

委員 プレゼンテーションで流した花火の動画で、皆さん喜んでいたのが非常に印象

的だったので、ぜひ来年以降も皆さんに喜んでいただけるような、参加者も来た人も同じように喜べるようなイベントにしていきたい。

⑤ 青葉区民まつり事業

委員 イベントの委託料がほとんど助成した金額となっており、業者と実行委員の間の業務分担の柱を明確にするということも大切だと思う。また、業者はどのようなかたちで選考されているか。入札か、それとも企画の提案で競争か、お聞きしたい。

説明者 競争入札ではなくて、公募にかけて、企画の提案をしていただく。今回は2社から提案があったが、そちらを項目ごとに採点をして高かった業者が選ばれている。

委員 1社でそこと決めているわけではないということだ。

委員 何社応募というところは今の質疑応答で明らかになったが、どういう項目について実行委員会やどういうメンバーが審査したのか、委託という仕組みを採用した場合には、こういうところについても透明化が必要になってくると思う。その辺を今後クリアにしていきたい。また、委託には良し悪しがあり、事務局の業務量が減ったように見えて実は役割としては多くなった、あるいはコロナの影響もあったと思うが、ノウハウが主催者側に蓄積されるのか、というところが課題になってくると思うので、そのあたりトータルに考えていただければと思う。

委員 受託することによって事務局の負担が軽くなったとあるが、それ以外に委託してよかった点、または悪かった点はあるか。

説明者 良かった点については、この方式でやった前提が、コロナ対策をノウハウに長けたイベント業者にやってもらいたいというところで、その点についてはきちんとできたと思う。行政だけでやると、コロナで今の段階では飲食出店できないと決定しても、数か月後には飲食できる状態になるかもしれない、そこから発注を掛けて全部準備するのは難しいが、委託だと、業者と随時情報共有しながらできる。具体例では、最初は市民広場をフェンスで囲って入場管理しようという方向で進めていたが、もう他の民間のイベントではやっていないし入場制限することに意味があるのかというところがあって、1か月前くらいにそれはやめようと、臨機応変に機動的に対応できたというのが1つのメリットだと思っている。デメリットの方は、主催者側と受託者側の役割分担がうまくいかなかったというところがあると思う。昨年度の区民まつり代替イベントに続き今回も、こういうイベントをやってくださいとまるごとお願いして、その中で主催者側でやりたいこと、やれることをやるというかたちだったが、どこからどこまでやるのかとあいまいになってしまった点もあるので、最初から主催者側でどういうまつりにするのかを決めて、その中から主催者側でやらなくていいという業務やコロナにかかる専門的な業務を業者にお任せしようという、そういった段取りでやった方がよかったと思っている。

委員 本当の意味での区民協働のイベントになるようにしていただければと思う。

⑥ 仙台伝統ものづくり塾事業

委員 すばらしい企画だったと思う。こんなに興味をもって頂き、定員いっぱいになってお断りをしてしまうのがもったいないと思うので、そういった方を例えば二次

的に調整して、また参加いただけるような方法などなかったのかと思う。また親子向け企画の対象が、小学校の1年生から3年生というとかなり小さいと思うし、結局キャンセルになったとなるともったいないと思うので、小学生全体というような募集はできないのか。

説明者　こちらキャンセル待ちが出るというところまで想定していなかった部分もあり、本年度に再度調整ということはできなかったが、令和5年度以降、企画案の1つとして考え反映していきたいと考えている。また、今回小学校低学年対象の講座当日が大雪のため、キャンセルが出てしまったということもあったが、確かに小さい子どもが対象だと、どうしても当日キャンセルが出ることがあるというのは感じていたので、こちらの方も来年度以降対象者を小学校1～3年生と区切るよりも小学生全体というようにするなど、もう少し幅を広げてもいいかと考えており、今後検討していきたいと思う。

委員　せっかく申し込んだ人たちが参加できないのは少しもったいないと思う。定員をオーバーした場合に、その人たちも参加できないのかどうかというのが1つと、直前で仕方がないのかもしれないが、キャンセルが出た場合キャンセル待ちをしている人たちに変わることができるようなシステムを作ることができないのかということをお聞きしたい。

説明者　定員については、コロナということもあり、ある程度参加者の距離を取って開催したいと考え、会場が柏木市民センターの会議室であったが、瓦講座の定員20名というのも目いっぱい人数を入れたようなかたちでの開催であった。藍染の定員18名については、アンケートで会場が狭く感じたというような意見もあった。今回申し込んだけれども来られなかった方のことを考えるともったいないと感じるところもあり、来年度以降の反省点として、講座内容を今年度のものを活かしたり複数回開催したりするなど、さまざまな方法を検討したいと思う。キャンセル待ちについては、瓦の講座では前日あたりにキャンセルが出て、キャンセル待ちをしていた方に連絡をした。玉虫塗については定員が5組で、5組しか申し込みがなかったのにキャンセル待ちという方はいらっしやらなかった。前日までにキャンセルが出た場合はキャンセル待ちの方に連絡し、当日だと何時間前になるかにはよるが、可能であれば連絡して対応できる体制にしていければと思う。

⑦ 個性ある地域づくり計画事業（宮町地区）

委員　リーフレットを新聞折込やポスティングで配布しているとのことだが、会のメンバーには、PTAの方や連合町内会などが入られており、ポスティングや新聞折込というかたちでこれを配ると少しもったいないというか、むしろ町内会の顔の見える関係を通してこういうものを配布したほうが、次年度に骨子案をさらに本冊子にする取り組みをすることだが、その冊子を作っていくときにこういう骨子案に対する住民の方々のリアクションや思いというものが出てきやすいと思う。

説明者　実はリーフレットを町内会を通して配ろうと思ってはいたが、枚数は1万枚よりも少し多いくらいだが、仕分けする作業とそれぞれ分けて配っていく作業に3日ぐらいの時間を要するという事が判明した。納期も間に合わなくなるかもしれ

ないというぎりぎりの中で、ここの負担を少し軽減させ、学校と商店街に配ることである程度配り切れるところには配り切ろうと話し合いが進み、このような形になった。冊子が出来上がって配るとなると、その大変さを乗り越えてやっていくということになるかとは思っているのだが、今回に関しては時間の制約があった。

委員 リーフレットがいつぐらいの時期に配られたのかわからないが、今までにどういいう声がこのリーフレットに対して上がっているか、あるいは今後お住まいの方々から意見聴取のようなことをどういうかたちでされるのかをお伺いしたい。

説明者 リーフレットは今まさに配り始めたところで、折込が最初ぐらいになると思う。福沢市民センターと東六コミュニティ・センターにはお渡ししている。これから大体5枚ぐらいずつ商店街各店で回すのと、銀行に置いてもらい皆さんに手に取ってもらいたいと思う。学校のほうにはこれから配るところで、声というのはまだ聴かれてはいないが、連合町内会などと連携をとっているのので、来年度は皆さんにアンケートなりでさらにもう一度よく見て頂き、頂戴した意見を吸収して、もっといいものにしていきたいと思う。

⑧ 仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演事業

委員 仙台の人や歴史などがモチーフになっているということだが、具体的にどういったテーマの紙芝居があるのか。

説明者 例えば人だと仙台四郎や土井晩翠などをテーマにしたものがある。歴史としては仙台市電を扱ったものや、民話としては蕃山の開山堂に像があるマタギを題材にした話、名産物だと牛タンや冷やし中華など、いろいろとある。

委員 いろいろなテーマがあるので、幼稚園や小学校などで上演するのも面白いかと思う。ぜひコロナに気を付けながら、そういった上演する場所を増やしていただければと思う。

委員 全部で何作品ぐらいあるのか。

説明者 36作品だ。

委員 図書館に来る方などにも興味がある方はいると思うので、演技手に高齢の方が多く上演するのが大変というのであれば、司書の資格を持っている方などでもできるかもしれないので、そういう方に働きかけるなどもよろしいのではないかと思います。

委員 とても期待している事業であるが、毎年あまり広がっていかない。多分広報の仕方に問題があると思う。子供たちにとっては新鮮で物語がわかりやすく、すごく興味のあるものだと思う。昔紙芝居で育った人間、特に老人クラブなど、そういう人たちは懐かしいということで楽しみにしていると思う。ただ紙芝居があるということが分からないのが問題かと思う。これから青葉区連合町内会長協議会などそういうところの定例会で1回上演したり、研修会でやってみたりするのもいいかと思う。連合町内会の会長などが認識すれば、多分自分のところの地域にも広がっていくかと思う。いろいろな広報の仕方を考えてみてはどうか。

説明者 検討していきたい。

(3) その他

4 閉会